

The Bukkyo Ikikaku News Letter

仏教企画通信

第85号

発行日 令和8年9月1日
発行所 有限会社 仏教企画
〒252-0016
神奈川県相模原市緑区城山 4-2-5
Tel: 042-703-8641 / Fax: 042-782-5117
発行人 藤木隆宣
Email fujiki@water.ocn.ne.jp

現存する最古の仏典とされる『スッタニパータ』から、仏教の原点を学びます。すでに説明したとおり、『スッタニパータ』は全部で五つの章から構成されていて、そのうちの第四章の「アッタカ・ヴァッガ（八つの詩句）」が最も早く成立したとみなされています。訳文は中村元『ブッダのことば スッタニパータ』（岩波文庫）から引用していますが、やや堅いかな古いかたと感じられる表現は、私の一存で、少し柔らかめに改めています。

今回は「悪意についての八つの詩句」です。それでは、本文を引用します。

完全にであると思ひなしている。かれは知るにまかせて語るであらう。

ひとから尋ねられたのではないのに、他人に向かつて、自分が戒律や道徳を守っていると言ひふらす人は、自分で自分を言ひふらすのであるから、かれは「下劣な人」であると真理に達した人々は語る。

修行僧が平安となり、心が安静に帰して、戒律に関して「わたくしはこのようにしている」といつて語ることがないならば、世の中のどこにいても煩惱の燃えさかることがないから、かれは「高貴な人」である、と真理に達した人々は語る。

汚れた見解をあらかじめ設け、つくりなし、偏重して、自分のうちにのみ勝れた実りがあると見る人は、真理ではないものを根拠とする平安に執着しているのである。

諸々の事物に関する固執（はこれこれのものであると）確かに知って、自己の見解に対する執着を超越することは、容易ではない。ゆえに人はそれらの（偏執の）住居のうちにあって、ものごとを斥け、またこれを執る。

最古の仏典『スッタニパータ』から学ぶ仏教

悪意

3

第4回

正木晃

文字どおり、獅子身中の虫です。問題は、同じことが仏教の長い歴史の中で、たびたび起こったという事実です。

この時期に曹洞禅が混乱した原因は複数ありました。禅界の外部では江戸幕府による仏教統制政策、同じく内部では隠元隆琦（一五九二～一六七三）による黄檗禅の渡来などがあげられます。

黄檗禅は中国における臨済禅の最終的な到達点です。当時の傾向を反映して、三教一致（儒教と仏教と道教は根本において一致）、華嚴・天台・浄土など諸宗の融合など、混淆禅の形態をとっています。また、隠元は「弘戒法儀」を著し、「黄檗清規」を制定して叢林の規

邪悪を掃い除いた人は、世の中のどこにいつても、さまざまな生存に対してあらかじめいだいた偏見が存在しない。邪悪を掃い除いた人は、いつわりと驕慢とを捨て去っている。どうして（輪廻に）赴くであろうか。かれはもはやひとり離れて、超然としている。諸々の事物に関して妄執や偏見に執着している人は、あれこれ誹られ、噂される。（偏見や執着に）執着していない人を、どの言いがかりによつて、どのように呼び得るであろうか。かれは執することもなく、捨てることもない。かれはこの世にありながら、一切の偏見を掃い去っているのである。

涅槃直後の悪意

説明をくわえるまでもありません。

まず、悪意の原因が偏見であると述べています。そして、偏見の原因が、欲望、好悪の感情、自己顕示、汚れた見解、諸々の事物に関する固執であるとも述べています。現代人のわたしたちも十分に納得できる話です。

では、ゴータマ・ブッダ自身は、悪意にさらされた体験があつたのでしょうか。各種の仏伝を読むと、布教の過程で、さまざまな悪意にさらされたと書かれています。多くの場合は、バラモン教の者たちが既存の利得を奪われまいとして、妨害したのです。

それだけではありません。実は、最初期の教団の中にも、ゴータマ・ブッダに対して悪意を持つ者がいたのです。この事件は、こともあろうに、ゴータマ・ブッダが死去した直後に、起こりました。原始

仏典の『涅槃経（大パリニッパ・ナ・スッタナタ）』に、こう記されています。

そのとき、年老いて出家したスバッタという修行僧が、かの会衆のうちに坐っていた。さて年老いて出家したスバッタは、（悲しみに暮れている）それらの修行僧に、このように言った。

「やめなさい、友よ。悲しむな。嘆くな。われらはかの偉大な修行者からうまく解放された。『このことはしてもよい。このことはしてはならない』と言って、われわれは悩まされていたが、今これからは、われわれは何でもやりたいうことをしよう。またやりたいうこと。」

訳者の中村元氏は、訳注でこう述べています。

残念ながら、曹洞禅でも繰り返し、起こりました。そして、そのたびに、心ある人々が、このような事態を改善しようと、苦心惨憺してきたのです。

戸山道白と面山瑞方

江戸時代の前期、混乱していた曹洞禅を、本来のあるべき姿に復興したのが、戸山道白（一六三六～一七二五）と面山瑞方（一六八三～一七六九）という二人の、師弟の関係にある禅師です。「この二人が出なかつたならば、曹洞宗の歴史はいまとはよほど違ったものになつただろうと思われるほど、二人の宗史の上に占める地位は鮮烈である。戸山も面山も復古主義者である。彼等は道元の古に還れという大旗を掲げた。……戸山・面山は戸山宗学と称せられて、今日の曹洞宗学から正統宗学の源流と目されている」（鍋島元隆）と言われます。

この時期に曹洞禅が混乱した原因は複数ありました。禅界の外部では江戸幕府による仏教統制政策、同じく内部では隠元隆琦（一五九二～一六七三）による黄檗禅の渡来などがあげられます。

黄檗禅は中国における臨済禅の最終的な到達点です。当時の傾向を反映して、三教一致（儒教と仏教と道教は根本において一致）、華嚴・天台・浄土など諸宗の融合など、混淆禅の形態をとっています。また、隠元は「弘戒法儀」を著し、「黄檗清規」を制定して叢林の規

り、常識では考えられない挙に出る。すると、師は弟子が悟ったとみなし、印可をあたらせてしまう。印可をあたらせたほうも、自分は悟ったと思いたむ。しかし、実態はただ単に意識を失って、何も考えられない状態に陥ったにすぎない。

そして、大口を開いて、「一度、この心を悟れば、もはや生死はなくなる。なぜならばこの心は無相無形で、虚空のごときものであるから、火も焼くことはできず、水もうるおすことができない。この悟りを得ないうちは生死に流転するが、この悟りを得れば、意識がひとたび無くなったとき、無相無形の法身仏となり、これより後は生死はなくなる。したがって、この境界を得れば、行くも坐るもすべて禅であり、従うも背くもすべて善もなく悪もなく、因果修証もない」と言う。

この大言壮語を、面山は第三祖の僧璨大師の言葉を用いて、「仏祖の大道を狭い量見の者は疑い怪しむ。そのために、道を得ようと急げば急ぐほど、道から遠離り、道に執着して道に入る方途を失い、必ず邪道に陥る」と批判しています。

乱れの根本原因とその対処法

面山は引用した箇所以外にも、いろいろな実例を挙げて、僧堂の乱れを指摘しています。しかし、僧堂の乱れを指摘し



ただけでは、事態は改善しません。そこで、面山は僧堂の乱れる根本原因を明らかに示したうえで、対処法を提案します。以下に、それを掲げてみます。

【根本原因】
唐の永嘉玄覺大師（六六五〜七二三）が記したとされる『証道歌』に、「黙のとき説であり、説のとき黙であって、いかなるときも説法の門を開いて、滞ることがない」とあるとおり、仏道には黙もあれば、説もある。仏道にいう黙は黙であっても説かないことではなく、説であっても舌を動かさないのである。

ところが、現今は、師も弟子も曹洞禅の宗旨に暗く、仏法の根本をいささかなりとも知らない。公案を死守して、經典も祖師の語録も読まず、無知蒙昧のまま、ただ分別意識のはたらくまに任せている。唐の薬山禪師は「言語をすべて否定してはならない。自分は今の言葉を用いて、言い表し得ない世界を示す」と言い、同じく中国曹洞宗の開祖となった洞山禪師は「仏法は相對の世界ではないが、これを表す言葉がないのではない。言語をもって現し得ない者は仏教者ではない」と言っている。このような古人（いにしえの優れた仏教者）とはまったく逆に、今時の師の多くは、今時の修行者が経論を理解できないのにつけ込んで、かえって文字を立てないことを自慢し、恥を知らない。

【対処法】
『禪苑清規』に「修僧に仏法を開示するために住持長老の制度がある」と記されている。また、宗門の規矩に、上堂（住持が法堂に昇り、定時におこなう説法。晩参ともいふ）・入室（師の室で各自が疑義を質問して受ける指導）・請益（師から教えを受ける指導）があり、毎日の早参・晩参があり、つねに宗旨を高く掲げないときはない、と記されている。今、わたし（面山）が扶け起すべき宗門とは、代々の仏祖が仏法の要とするものであり、嫡嫡相承されて達磨大師に至り、インドより西来されて少室山において面壁坐禅された、その当のものにほかならない。これが仏祖が単伝された三昧であり、洞山大師がいう宝鏡三昧である。

道元禪師は「ただ坐禅の一事のみ真実で、他はすべて真実ではない」（『永平広録』巻四）と述べておられる。

曹洞禅における「黙照」とは、諸仏の智慧であり、自己の光明である。『華嚴經』では海印三昧といい、毘盧舎那蔵三昧といい、『法華經』では無量義三昧といい、『般若經』では三昧王三昧という。この三昧に入れば、必ず大光明を放って、仏道を成就するのである。ただし、「黙照」の世界はこれを証する者のみが知り得る世界なので、いい加減に悟った者ではその子細をうかがえない。だからこそ、道元禪師はその誤りを正さざるを得なかったのである。しかるに、この期に及んで、日本二万余の曹洞禅の法孫が、ただただ手をこまねいているとはなんたることか。

わたし（面山）は虫けらの

仏教企画発行の刊行物

『修証義』解説 ●丸山劫外=著

1,400円*

葬送のしおり ●長井龍道=著

30円

〈修証義読本〉生老病死 ●須田道輝=著

500円*

曹洞宗檀信徒経典 ●須田道輝=解説

300円*

〈曹洞宗檀信徒必読〉供養のすべて ●靈元文法=著

140円*

〈曹洞宗檀信徒必読〉葬儀のすべて ●靈元文法=著

150円*

俳句随想 玉崎千鶴子 その永遠の世界を探って

500円

観音の咒 大悲心陀羅尼 ●渡辺章悟=著

500円

宗教人類学の地平 ●佐々木宏幹=著

2,300円

仏教人類学の諸相 ●佐々木宏幹=著

2,300円

民族宗教と仏教文化 佐々木宏幹先生追悼論文集

3,500円

※ 書籍価格はすべて消費税、送料別価格です。（★印のものは部数により割引があります）

※『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。

お申し込み

〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山 4-2-5

Tel: 042-703-8641 Fax: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

※ご寺院名後の番号（3桁もしくは4桁）がお客様番号（コード）になります。

お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号 でも可能です。

有限会社 仏教企画

季刊誌 曹洞禅グラフ

【発行日／年4回】

彼岸－春号	2月1日
お盆－夏号	6月1日
彼岸－秋号	9月1日
正月－冬号	11月1日

【定価：200円／1部】

～9部	200円
10～19部	150円に割引
20～49部	135円に割引
50～99部	130円に割引
100～199部	120円に割引
200～299部	110円に割引
300～499部	100円に割引
500部～	90円に割引

ような者だが、正伝の坐禅を修証して、以上の弊害を改めたいと念願している。そこで、毎日、晩参において、曹洞禅の宗旨を提唱している。修行僧のみならず、よく知ってほしい。道元禪師は昔、晩参を実践して、古風を挽回されたところが、今、道元禪師の門流では絶えて晩参が実践されていない。この一事からも、祖師の家風が地を払ってなくなってしまったことがわかる。

わたしが晩参を実践している理由は、道元禪師をお手本にしているからであり、ただただ仏祖の正伝した坐禅を地に落としたくないからなのである。

以上が面山の提案です。二十一世紀の現時点で、三百年ほど前に面山が提唱したような晩参を実践している僧堂は、どれくらいあるのでしょうか。

令和8年（2026年）9月1日 | 第85号

仏教企画通信

2

則を一変しました。現在では黄檗禅の影響力はさほど大きくありませんが、隠元が来日した当時は、禅界に一大旋風を巻き起こしたほどでした。その衝撃は、禅界だけでなく、俗界にまで及びました。

現に、長州藩の第三代藩主となった毛利吉就、藩庁のある萩に毛利家の菩提寺として臨済宗の靈椿山太照院がすでにあったにもかかわらず、元禄四年（一六九二）、黄檗宗の護国山東光寺を創建して菩提寺としています。以来、幕末まで、偶数代の藩主は臨済宗の大照院で、奇数代の藩主は

嗣法の乱れ

とりわけ、黄檗禅の法系を重視する方向性は、弛緩していた日本の禅界にとって、まさに衝撃でした。曹洞禅でも、室町時代あたりから、師資間の法灯相承が混乱していたからです。つまり、師から弟子

東光寺で、おのおの祀られてきました。このような事情からも、禅界は、臨済禅のみならず、曹洞禅も、新来の黄檗禅とどう向き合うか、喫緊の課題だったのです。

平正法眼蔵』の「嗣書」巻をひもとき、そこに「当代の名譽のともがら、あるひは王臣に親附なる長老等に嗣法するときは、得法をとはず、名譽をむさぼるのみなり。かなしむべし、末法悪時かくのごとき邪風あることを」と書かれていたのを読んで、これは、道元禪師のおられた鎌倉時代のことではなく、いま自分が

僧堂の実態

面山は四十七歳のとき、若狭（福井県）の建康山空印寺（福井県）に招かれ、五十九歳までの十二年間、住持をつとめました。このときに提唱した説法は、面山が八十三歳のとき、『建康面山和尚普説』として、弟子たちにより刊行され、代表作とみなされてきま

した。では、『建康面山和尚普説』から、当時の僧堂の実態を引用します。

永平祖師は言われている。「仏法を学ぶ者は、身心の調え方が最も重要だが、それは簡単ではない。凡夫も外道も坐禅を実践するが、それは仏祖の坐禅と異なる。その理由は、外道の坐禅は、身心を分けるという間違った思想、悟りに対する執着、思い上がりがあるからだ。もし、思想が外道と同じならば、身心を苦勞させても、まったく無益である」。

風と言って良いだろうか。すべては、独りよがりの非難攻撃から学んだ思い上がった見識にすぎない。真に仏祖の道を志す者は嘆くであろう。

邪道の禅

これを読むと、当時の僧堂で、悪意にもとづく暴力が横行していたことがよくわかります。そして、その悪意の根底に、我見にもとづく非難攻撃や思い上がりにもとづく見解、すなわち偏見があることがわかります。ゴータマ・ブッダが『スッタニパータ』において喝破したとおりです。

修行僧のみならず、この言葉をよくよく繰り返し読むが良い。我見にもとづく非難攻撃、思い上がりにもとづく見解ゆえに、師と弟子が違り取りするのを見て、引く捕らえたり投げ出したり、棒を振り回したり、喝を放ったり、眼を怒らしたり、顔を真っ赤にしたり、悪口罵倒したり、怒りのあまり拳で殴ったり、あるいは袈裟を裂き破ったり、あるいは上下の衣服を引き裂いたりして、あぐくの果てには、互いに傷ついて頭上に血がしたたるに至る。

しかるに、こういう連中が天下にはびこり、いたるところでむやみに質問をぶつけ、力で押し続け、徳があり尊敬すべき先輩僧を押し倒して打ちたたき、驕り高ぶって、自分は某和尚や某禪師を屈服させたと主張するのである。ああ、これを曹洞宗の綿密な宗

面山はこうも指摘します。このような乱れに乗じて、多くの僧堂では、釈尊と迦葉の拈華瞬目破顔微笑、達磨大師と慧可の面壁九年依位三棒を無言の説の典拠とし、また禅門の以心伝心を世俗の謎解きのごとく曲解している。善知識とされる師が、弟子に一則の公案を授けて、あとは何も教えず、激励の手段として、例のごとく無理やり長く坐らせ、疲れて眠りそうになると拳骨や手のひらで打ち、踏んだり蹴ったりする。罪人に対する罰と何も違わない。

ある僧堂では、師にとまらず、仲間同士でも同じことをする。出家したばかりで善悪もわきまえない若い僧侶は、こういう酷薄な仕打ちにあうと、身は縮こまり心は塞がって正気を失い、泣いたり笑ったり吠えたり変な格好をした

東日本大震災後の
宗教活動のなかで

あまり知られていないかも知れませんが、傾聴ボランティアという活動があります。二〇一一年の東日本大震災をうけて、臨床宗教師および臨床仏教師を養成しようという動きが、東北大学を主体として始まりました。この年は私が退職後に入学した駒澤大学を卒業して、その仏教経済研究所の研究員みたいなことをやらせていただいていた時です。これは興味深い動きだと思っただけです。全国青少年教化協議会が行っていた、臨床仏教師養成講座というものに出席したり、そうした活動をまとめる論文を書いて、仏教経済研究所の冊子に投稿したこともありです。

ただ、在家の人間がそれになるというのはハードルが高くて、なかなか実現できない、やはり臨床仏教師のメインはお坊さんです。傾聴ボランティアというものも同じころからさかに行われるようになったと思いますが、こちらには在家でもできます。私の住む我孫子市に「傾聴ボランティア」という組織があったものですから、そこに入ったというのが私のボランティア活動のはじまりでした。

そのときは、在家という社会活動、禅を生かすという、すが、仏教の精神を生かしながらやり始めた。ところが、この傾聴ボランティアというの

清水秀男

傾聴とは
耳も目も心も働かせ、
全身で相手に向き合うこと

はそう単純なものではありませんでした。私にとって非常に勉強になったことですが、傾聴の「聴」という字は、耳偏に「十」と「目」を書いて、下に「心」です。普通の聞くという字、門構えの中に耳とは大違いです。

英語では「きく」を表現するとき、hear と listen がありますが、hear は「聞」、listen は「聴」に相当します。「聞」というのは受動的な感じがするのに対して、「聴」は、相手の言うことを全身で理解しながら受け止めるということです。この違いを知ったのは、ボランティア活動が始めてか

らでした。傾聴ボランティアが聴くということとは、全身で聴かないといかんということ、相手の話を否定・反論・批判しないで、そのまま受け止めるということ、共感と同時に受容するということなんです。

相談の解決策は
話し手自身が持つてくる

私の傾聴ボランティア活動を顧みますと、我ながら失敗の連続だったと思います。相手（話し手）が主人公なのに、自分（聴き手）が主人公のように振る舞ってしまふ。聴くほうが主体になってしまふわけです。相手があれこれ話してくるのを聴いて、「ああ、そうですか、私はそれについてはこちら思います」などと、勝手に聴き手が言ってしまう。そうじゃないんです、あくまでも話している相手が主人公なんです。

そこを勘違いしてしまうと、相手はかえってガードを固めてしまつて、あまり話をしなくなってしまう。相手のことをそれほど理解しないままに、「ああ、分かる、分かれます」なんて言って、実は全然分かってない。そうなる

寄附者御芳名（敬称略）			
《児童養護施設》てまり学園 支援金			
所在地	寺院名／個人名（回数）	金額	
神奈川県	青木義次（147）	5,000	
神奈川県	青木義次（148）	5,000	
	合計額	10,000	

仏教企画通信 支援金		
所在地	寺院名／個人名（回数）	金額
千葉県	観音寺	10,000
愛媛県	高昌寺	20,000
長崎県	南明寺	10,000
茨城県	龍泉院	10,000
宮城県	観音寺	30,000
愛知県	妙元寺	10,000
福島県	円通寺	30,000
——	マンブクジ	10,000
鳥取県	林泉寺	10,000
群馬県	建明寺	50,000
愛知県	医王寺	10,000
兵庫県	瑞雲寺	10,000
兵庫県	永澤寺	20,000
兵庫県	菩提寺	10,000
宮城県	光嚴寺・千田豊穂	10,000
栃木県	満福寺	10,000
新潟県	宝光寺	10,000
佐賀県	普恩寺	10,000
静岡県	定林寺	30,000
	合計額	310,000

ご支援をいただき
誠にありがとうございます

聴きますと、「ああ、この人には聴いてもらえるな」と話はすむわけです。そうして話すことによって、相手の気持ちも整理されてくるでしょう。次に、「私はこういう苦しい問題を抱えています。どうしたらいいでしょうか」と本題に入る。そのときに、「こうしたほうがいいですよ」と言ったら駄目です。あくまで相手が主体で、基本的にその答えは相手自身が持つてい



傾聴ボランティアというのは、人間生活において一番大事なことにゃないかと私は思っています。人間のコミュニケーションの一番のポイントは傾聴だと。今、日本の教育の中で、読み書き、話すに比べて、聴くという教育はおろそかになっていないでしょうか。傾聴の活

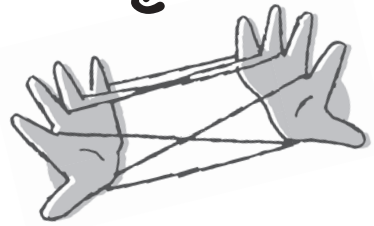
間を、新聞でプロ野球の吉井監督が言っているのはよく聴き、選手自身が自分で解決策を見いだせるように持つていくことだ。なるほど、これは傾聴だと思いました。親子関係でも、相手の言うことをよく聴かず。自分が頭にきたから投げ倒すなんて、とんでもない話です。まず聴かないといかんです。もう一つ、傾聴活動で学んだことですが、Not doing, but being（何かをすることなく、ただそばにいること）という言葉があります。傾聴の相手の中には、高齢者や認知症の方

何かをすることなく、
ただそばに

動をできる限り広めていきたい、そういう問題意識を持つてい

今の時代だからこそ、 積極的な関わり合いを

福島県長秀院住職 渡辺祥文



コロナ禍を越えてから、東京駅などで本当に多くの来日した外国の方々に出会う。タクシー乗り場など日本人の方が少ないほどである。円安等の状況もあるが、何か大きな魅力があることも確かなようである。

現代は世界各国から多くの道を求める人々が続々と来日し、本山僧堂はじめ各地の道場に安居修行している。多くはそれぞれの国々の深く根付いたキリスト教文化の中で生まれ育った人々である。その人々が仏教に出会い曹洞宗を選

択し、なんの保障もないのに、発心し言葉も文化も違う日本国内で只管弁道の日々にある。坐禅を安楽の法門と信

決定している。接心等に参ずることが無上の法悦であり生きがいとなっている。

今現在、何かの機会

前に初の欧州特派布教巡回を教団より拝命し、フランス、イタリア、オランダを巡回した。フランスの布教総監部を中心に各道場や禅サークル等を巡らせていただいた。任務の重さに緊張していたが、現地で眼の色も肌の色も違ふ大勢の墨染めの法衣の人々と接し意見交換等をしたことはとても意義深いものであった。約五十年前の自分自身が本山安居中、互いに物珍しいと感じながら二、三名の北米出身の雲水さんと坐を共にした頃とは隔世の感があった。

ヨーロッパの中で 人気第二の仏教の曹洞宗

ヨーロッパの曹洞禅の始まりは弟子丸泰仙老師である。四十五年前、駒澤大学の耕雲館（旧図書館）において日本に帰国中の弟子丸泰仙老師の講義を受講することができた。ヨーロッパに曹洞禅を根付かせたいと願う熱情に圧倒された。次の年に老師はご遷化されたので、特に印象深いものとなった。講義内容の要旨は「仏教と坐禅は世界に広がる」というものであったが、老師ご自身がフランスに渡り

確信された言葉であったのだと、自分がヨーロッパの曹洞禅を実際に見聞し改めて思う。フランスの道場での質問と意見交換の時間にフランス人とドイツ人雲水からいわれた「ヨーロッパで人気の高い仏教を知っていますか？また有名な仏教者が誰か知っていますか？」

「いいえ知りません。教えてください。」

「一番人気の高いのは、チベット仏教です。二番目は曹洞宗です。それから有名な仏教者は、ダライ・ラマ法王です。次に有名なのはティク・ナット・ハン師です。」

「そもそも、ヨーロッパの人々は仏教への関心興味はあるのですか？」

「仏教への関心は高まっています。少し説明しますと、チベット仏教は、ダライ・ラマ法王のノーベル平和賞受賞とその生き方や世界へ発信する力だと思っています。曹洞宗の禅は、弟子丸泰仙老師によってもたらされ、坐禅の実践が尊いことが理解されました。その後、禅の文化や日本食、漫画やアニメーションまで含めて日本文化とともに受容されたと思います。ファーストコ

ンタクトは弟子丸老師によるものですが、今は第一世代から第二世代、第三世代へと進んでいます。曹洞宗の坐禅と禅文化、そして日本文化への理解と憧れが、人気第二位の理由だと思っています。その中で、私もそうですが、人生をかけて学び実践しようと思ったのです。私も近い将来日本の道場入門したいです。」

「私も彼と同じように日本で将来学びたいです。お金をためて必ず日本に行き道場入門します。仏教は理にかなっています。坐禅は素晴らしいと思います。寛容の精神も大切だと思います。」

通訳を通してであるが、その情熱と自己決定の力強さに自分自身が揺さぶられているように感じた。

* * *

仏教の生き方、禅の生き方は人間が人間の在り方を自らつくっていくこと、換言するのなら自分が自分の在り方を仏教に照らし歩いていくことであると思う。キリスト教的世界観（カトリック、正教、プロテスタント等の違いはあるであろう）の中で育った人々があえて「一神教的世界観」から離脱して、仏教を選択し、禅を、曹洞宗を選ぶことは意義も意味も深いと感じる。

当時のヨーロッパといえば、二〇一五年十一月十三日金曜日のフランスを中心とした同時多発テロによる心理的影響、移民問題、宗教対立問題に揺れていた。パリ市内にも自動小銃で武装した兵士や職務質

間をする警察官が常駐していた。分断と対立という問題が顕在化していることを実感した日々だった。

講義や意見交換の中で、仏教、坐禅、智慧と慈悲、同事について、そして「あの福島からきている」ということで「原発事故後のフクシマについて」様々な質問が続いた。時間の許す限り質疑に答え熱心な議論が続いた。

* * *

私たちは時々勘違いをしてしまふ。人口減少・対立・分断・貧困・技術の進歩とそれゆえの不安、自然災害や疫病等、どの時代にあっても苦悩と不安は続く。人間の苦悩が大きければ安心を求める要請も大きくなる。東日本大震災・原発事故後も坐禅や写経の講義要請が二倍にも三倍にもなった。コロナ禍が終えた今もそうである。僧侶はその要請に応えなければならぬ。高齢者から見れば陳腐に感じる「オンライン坐禅会」「YouTube 法話」等も、求めるものがあるから不可欠なものになっている。

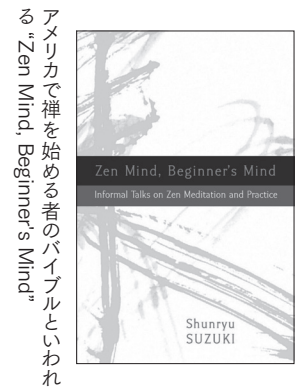
私たちは内向きにならず、積極的に時代と切り結び、多くの人々と関わりながら進みたい。大変な時代だからこそ僧侶が一生懸命働かなければならないと思う。



「坐禅をするアメリカ人が少しずつ増えていた59年に、曹洞宗から桑港寺に派遣されたのが鈴木俊隆老師でした。北

若者が集まった背景には、同寺の僧侶、加藤和光師と思想家、アラン・ワッツとの交流があった。東洋哲学に関心があつたワッツは加藤師から禅を学んだが、禅は口で説くだけでは伝えないということ、師が桑港寺で参禅会を始めたのである。

「師は、約10年間禅宗寺にいらした後の34年に、今度はサンフランシスコに移り桑港寺を開かれました。こちらも日系人のための寺院です。この桑港寺に、1950年代中頃からアメリカの若者たちが集い始めます」



アメリカで禅を始めた者のパイプと呼ばれる「Zen Mind, Beginner's Mind」

米禅の開墾期に、まさにジャスト・タイミングな登場でした。桑港寺の僧伽は順調に成長し、鈴木師はサンフランシスコの奥座敷、カーメル溪谷に全米初の本格的叢林「タサハラ禅マウンテンセンター」を創設（67年）。また、サンフランシスコ近郊にも布教を進めた。とくに、名門スタンフォード大学の周辺では、学生を中心に学生寮やメンバーの自宅で盛んに坐禅会が開かれた。そんな坐禅グループのひとつが、メンバーの家のガレージを改装して開いたのが「俳句禅堂」（66〜82年）という小さな禅堂だった。ロングセ



禅宗寺の禅堂。参禅会は、毎土日曜の朝、そして月曜の夜に開かれる。アメリカ式で警策を用いない。

「正式に寺院として登録されているのは48カ寺です。僧侶が300名ほど。2022年には350名いましたから、この数年でぐっと減りました。日米の禅には大きな違いがあります。それは、アメリカには2つのタイプの禅施設が存在するという点。ひとつは、日系米国人が主な信者の寺で、日本と同じく檀家形式を用い葬儀や法事といった行事が中心です。もうひとつは、一般のアメリカ人が通う禅センターですね。こちらは、坐禅会やワークショップ主体の一種の修行道場です。実は、数字面だけからいうと、双方ともに緩やかな下降傾向にあるんですよ」

僧侶に育つアメリカ人も

先ほど、御寺の「僧侶と檀家の関係は魅力的」とおっしゃいました。そんな禅宗寺でも、檀家は減少傾向にあるのですか？

「やはり世代交代が起きているから。この数年、従来、禅センターを主導してきたビートニク、ヒッピー世代の僧侶やメンバーの引退や逝去が続いています。ですが、次世代への継承がなかなかむずかしい。それに、地方の禅センターですと、アメリカ人の住職が、僧侶以外の仕事と兼業しながらひとりで運営しているケースが多いんです。収入源はその方の職業に頼っているの、跡継ぎ問題はより深刻



今夏の五箇盆会大施餓鬼法要。アメリカ人僧侶の姿も

「ええ。一般に、移民宗教は移住した一世に始まり、子世代の二世が大人になった時に最盛期を迎えます。そして、三世、四世以降になると、一世時代にあった本国の宗教や文化に対する渴望や熱情がなだらかに落ち着いていく。また、居住地も拡散していきます。当寺は今、この段階にあるといえます。ただね、これは健康的な推移でもあるんですよ。宗教は苦しい時ほど必要なもの。日系米国人が辛い移民期を乗り越え、アメリカに同化し幸福な時代を迎えている証左です」

「北米禅施設のもうひとつのタイプ、禅センターも縮小しているのはなぜでしょう？」

「やはり世代交代が起きているから。この数年、従来、禅センターを主導してきたビートニク、ヒッピー世代の僧侶やメンバーの引退や逝去が続いています。ですが、次世代への継承がなかなかむずかしい。それに、地方の禅センターですと、アメリカ人の住職が、僧侶以外の仕事と兼業しながらひとりで運営しているケースが多いんです。収入源はその方の職業に頼っているの、跡継ぎ問題はより深刻

「仏教もキリスト教も既成宗教は、アメリカでも同じ傾向にあります。結局ね、寺や教会にとって究極的に大事なものは、そこがなんのためにあるのかを明瞭にすることだと思っんです。そしてその上で、存在の理由や根拠、歴史を、僧侶や僧伽、信者ほかのそこに集まる人々が共有することが欠かせません。逆にいえば、これらが脆弱な寺や教会は存続が困難になるといふ現実があります。淘汰の危機にある寺院は、『自分たちの寺がなんのためにあるのか？』に立ち返り、自らを問い、解を導くしかないのではないのでしょうか」

小島師は幼い頃から、実家の寺を頼り、集う地域の人々に接しながら、「寺の存在意義について絶えず考えてきたし、この先もずっと考え続けるだろう」という。「個人的には、禅が盛んかどうかはあまり気にしていません。それより、アメリカ文化と調整しながら曹洞禅本来の教えを伝えていくのが私の務め。私自身は禅宗寺を、開創理念に基づく『人々の心の拠り所』と、禅センター的『修行の場』——2つのミッションを持つ寺として護持し、育んでいきたい、そう強く思っています」

北米に最初に禅が紹介されたのは1893年、シカゴ万国博覧会の時。同博では「万国宗教会議」が開催されたが、そこに臨済宗の僧侶、釈宗演が出席し、禅を広めた。以来一世紀余——禅は、かの国でいかに受容されてきたのか？ 北米別院禅宗寺の曹洞宗国際布教主任、小島秀明師（58）に「アメリカ禅の今」を訊いた。

百年の歴史を持つ移民の寺

「曹洞宗のアメリカ布教に関しては、北米に曹洞禅を開花させた鈴木俊隆師に見られるようによい時期にいい僧侶が赴任した、この事実が大きかったと思います」

ロサンゼルス日本人街、リトル東京の禅宗寺に小島師を訪ねると、師は穏やかな口調でこう語った。佐賀県に生まれた師は、95年以来、同寺で布教活動に勤しんでいる。

禅宗寺は、曹洞宗が米本土で第一歩を踏み出した記念すべき寺院である。



ロサンゼルス禅宗寺境内に建つ磯部峰仙師の銅像

開創の契機は、1915年に永平寺貫首、日置黙仙禪師（1847〜1920）が、サンフランシスコで開催された「世界仏教徒大会」に出席したことだった。禪師は帰途、ハワイに磯部峰仙師（1877〜1953）を訪ね、米本土における伝道を要請する。磯部師は、その2年前に両本山ハワイ別院正法寺をホノルルに創建していた。日置禪師に続いて21年に渡米したのが、總持寺貫首の新井石禪禪師（1864〜1927）だった。禪師がロサンゼルスを訪ねし、米本土開教の糸口を築くと、翌年には磯部師がハワイから本土に渡りリトル東京に仮教会を開く。そして、4年後の26年10月、現在の地に禅宗寺の伽藍を建立し、入仏式を執り行ったのだった。

「アメリカでも無論、禅が盛んな時代もあったでしょうでない時代もありました。米国開教史上ひとつのピークを迎えたのが、1950年代後半から70年代にかけてのビートニク、ヒッピー時代。戦後の物質主義と、キリスト教一辺倒の文化に疑問を抱いた若者たちの心に禅が響いたのでしょう、西海岸を中心に一気に広がりを見せました」

「正式に寺院として登録されているのは48カ寺です。僧侶が300名ほど。2022年には350名いましたから、この数年でぐっと減りました。日米の禅には大きな違いがあります。それは、アメリカには2つのタイプの禅施設が存在するという点。ひとつは、日系米国人が主な信者の寺で、日本と同じく檀家形式を用い葬儀や法事といった行事が中心です。もうひとつは、一般のアメリカ人が通う禅センターですね。こちらは、坐禅会やワークショップ主体の一種の修行道場です。実は、数字面だけからいうと、双方ともに緩やかな下降傾向にあるんですよ」

「減少とは意外です。禅宗寺は、どちらのタイプに属するのでしょうか？」

「両者の要素を内包しています。しかし、それを語る前に、そもそも当寺が創られた背景を少しお話ししましょう。1922年当時、ロサンゼルス市では日本人移民が急増していました。1900年

小島秀明師

曹洞宗両大本山北米別院禅宗寺 国際布教主任

Interview

アメリカ禅の今

聞き手 / 写真 柳田由紀子 (在米ライター)

の国勢調査によれば204名だった日本人人口が、20年後には1万1618名にまで膨らんだ——一説には、06年のサンフランシスコ大地震後、日本人移民が大挙してロサンゼルスに移住したといわれます。一時は、日本人労働者用の下宿屋がこのリトル東京に80軒もあったとか。

それゆえ、日本食材や日本語新聞、日本人医師や子どもたちのための日本語学校など、何もかもが不足していたのです。欠乏は、物質面だけでなく精神面にも及びました。海外移住という過酷な環境、死と隣り合わせの重労働、貧困、さらに年々高まる排日機運……日本人移民には、精神的支柱となる拠点がどうして必要でした。そこで、曹洞宗では開教師を派遣し禅宗寺を開いたのです。派遣された磯部峰仙師は、豪胆で開拓期向きのお坊さんだったようです。なかなかの酒豪で、日系人が営む酒屋と



開堂当時の俳句禅堂と鈴木俊隆師

豆腐屋にけっこうなツケを貯めていたなんて逸話もあるんですよ（笑）。そもそも僧侶は学問も道徳もあるので、コミュニティのリーダー的存在になっていきました。禅宗寺だけでなく、戦前アメリカに創建された日系寺院はどれもこんな歴史を背負っているんです」

禅とシリコンバレー

「寺の成り立ちが日本とは違うのですね。」

「はい。ですから、私ども僧侶の活動内容も日本とは異なります。」

たとえば、こちらでは仏教寺院でもサンデーサービス（日曜礼拝）といって、毎日曜に檀家や参拝者とともに朝のお勤めを行います。キリスト教国では——この頃は変わってきたとはいえ——日曜の朝は教会に行く、それが真つ当な人々がすることとい

編集後記

藤木隆宣

熊本県を襲った地震、千葉県を襲った豪雨は想像を超える被害をもたらしました。まずは被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。両県とも、曹洞宗の寺院が数多くある土地柄でもあり、復興の速やかなることを願わずにはいられません。

私の本務地永正寺は東京都世田谷区北沢にあります。この街は今や古着の街、また若者の街として世界に通ずる地域になっていきます。ということとをあれこれ考えまして、わが永正寺が大乘仏教の発信地になればと、ひそかに夢見ているところでもあります。檀家制度は江戸時代に確立しましたが、今は時代が変わり、村社会を支えてきたお寺もバラバラの価値観を持った都市型社会に対応できるお寺へと、姿を変えていかなければならないと思います。永正寺でも、毎月第一日曜日の朝8時から坐禅会を開催するようになりました。

この坐禅会は平均5〜7人の参加ですが、地域の特色を反映してか、いろいろな方々が訪ねてこられます。ある日、高校2年の女子高生が参禅にきました。帰り際に、私に質問があるという。「今、身の回りに情報はあふれているけれども、一人一人

の生徒は孤独なんです」と彼女は言います。「住職が高校生の頃は、どんなふうでしたか」

1944年生まれの私の高校生時代のことを思うと、私の周りにはいつも遊び友達がい、これは高校時代に限らず、中、小、もっと下の頃から仲間はいたものです。今の生徒は受験勉強に費やす時間が長く、受験勉強に追われてしまうのかもしれない。ですから、まずはクラスで友達づくりを提案し、その考え方を学校全体に広げてはどうか、といったことを話しましたが、この女子高生はその年の秋にはオランダへの留学が決まっているとのこと。残念ながら私の提案は空砲になりました。私の友人のオランダ留学の経験がある人を紹介して、その日は終わりました。彼女のオランダ留学がうまくいきますようにと、今は願っているところです。

広島、長崎に原爆が落とされて81年、NHKの特集番組によると、核兵器が使われるのではないかという危機が、沖縄の本土復帰以前に一度あったとのこと。中国と台湾が領土問題で争っていて、アメリカの台湾を守る姿勢が強い時期もあった。ですから、もし中国が台湾に武力侵攻していたら、アメリカは核

を使用していたらどうとその番組では推測していました。

幸いなことに、その時中国は台湾に攻め込まなかったのも事なきを得ましたが、今の中国の軍事力はアメリカと肩を並べるまでになってきております。もしそのころと同じような緊張関係が米中にあったとしたら、今の中国は台湾を攻めるのではないか。そうなれば最悪のシナリオとして、核戦争から第3次世界大戦にまで至ってしまうのではないか。まさに地球滅亡の危険まで秘めているというのです。

わが国でも、防衛装備品の開発やその輸出が問題になっておりますが、今の世界情勢は残念ながら核抑止より核拡張に向かっています。日本もその対応を迫られていますがいまだ良い案は生まれていません。北朝鮮は時々弾道ミサイルの発射実験をしています。今は日本海の日本の領域外に落としていますが、あれが日本

のどこかの市中に落とされると考えると、隠れる場所などない状態です。まさにウクライナやガザのような、悲惨な状況になりかねません。

もちろん、そのような悲惨な状況を望むものではありませんが、防衛の枠を決める議論は必要ではないでしょうか。消費税1パーセント減税の問題も大事ですが、一国の防衛の在り方を議論することは、さらに大事なことと思われるのです。

前号掲載の「果てしない『妖怪学』の旅路」につきまして、小松和彦先生のご講演とは異なる内容が含まれておりまして、つきましては小松先生とご相談の上、あらためてご講演そのものを掲載させていただきますこととなり、その準備をすすめております。したがって、前号で予告した「後編」の掲載は見送ることといたしました。

16

一仏両祖の教えを今に伝える

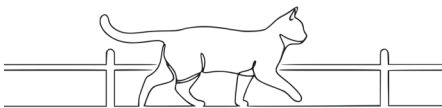
曹洞禅グラフ

2027 冬 正月号-179

特集

オランダ人の夫と日本人の妻
二人仲良く坐禅にいそしんでいるという

茨城曹洞宗青年部が
企画する
禅散歩とは――



2026年11月1日 刊行

梵漢和対照テキスト付

陀羅尼を

大悲呪から
楞嚴呪まで
読む

【小野卓也・著】 〇四六判 〇376頁
〇定価3960円(税込)

大乘仏典に見られる聖なる呪文

「陀羅尼」。

古来、翻訳や語義の詮索が避けられてきた陀羅尼について、意味を理解すること、仏の智慧に近づけるとして、その読み方や意味などを詳解する。

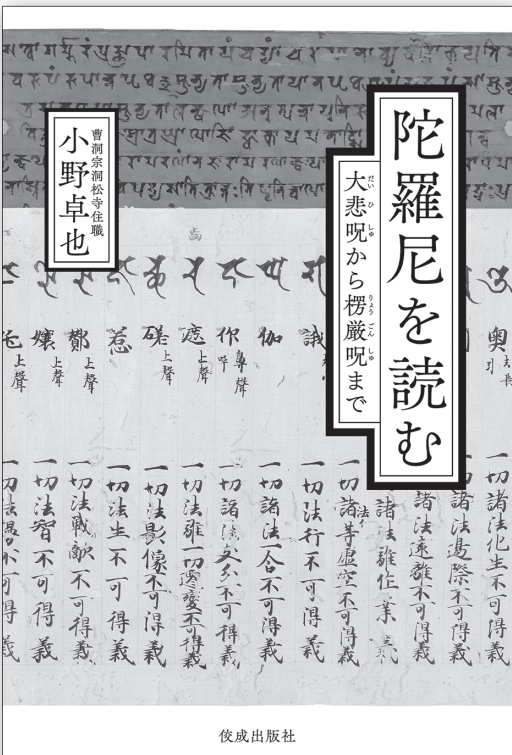
佼成出版社

〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
TEL03(5385)2323 FAX03(5385)2334
<https://books.kosei-shuppan.co.jp/>

陀羅尼を読む

大悲呪から楞嚴呪まで

曹洞宗駒松寺住職
小野卓也



佼成出版社

最新刊